

失敗しないリプレイスで遠隔コミュニケーションの効果を最大化する

オンライン会議室構築 まるわかりマニュアル



VTVジャパン株式会社

2026年3月版

目次

| | | | | |
|------------------|-----------------------------------|-------|-------|----|
| 1.はじめに | － 会議室の環境改善は、ビジネスの加速装置です | － | ----- | 3 |
| 2.会議室のお悩み別構築例 | ----- | | | 4 |
| case01 | :複数の会議室を用途に合わせて単独・合同で選んで利用したい | ----- | | 5 |
| case02 | :会議室で音が反響する問題を解決したい ①ガラス張りの会議室 | ----- | | 6 |
| case03 | :会議室で音が反響する問題を解決したい ②設備を変えずに対策したい | ----- | | 7 |
| case04 | :発言者の様子がはっきりと伝わるようにしたい | ----- | | 8 |
| case05 | :工事不要ですっきりとした見栄えのいい会議室にしたい | ----- | | 9 |
| case06 | :声が小さい人の問題を解決し、議事録作成の手間を軽減したい | ----- | | 10 |
| case07 | :複数のオンライン会議ツールが利用できる会議室を構築したい | ----- | | 11 |
| 3.会議室構築時に気をつけたい点 | ----- | | | 12 |
| 会議室構築時のポイント | ----- | | | 13 |
| 導入・運用開始までのスケジュール | ----- | | | 14 |
| 保守サポートの検討 | ----- | | | 15 |
| カスタマイズ保守のご案内 | ----- | | | 16 |
| 4.よくある質問 | ----- | | | 17 |
| 5.デモンストレーションのご案内 | ----- | | | 18 |

はじめに

— 会議室の環境改善は、ビジネスの加速装置です —

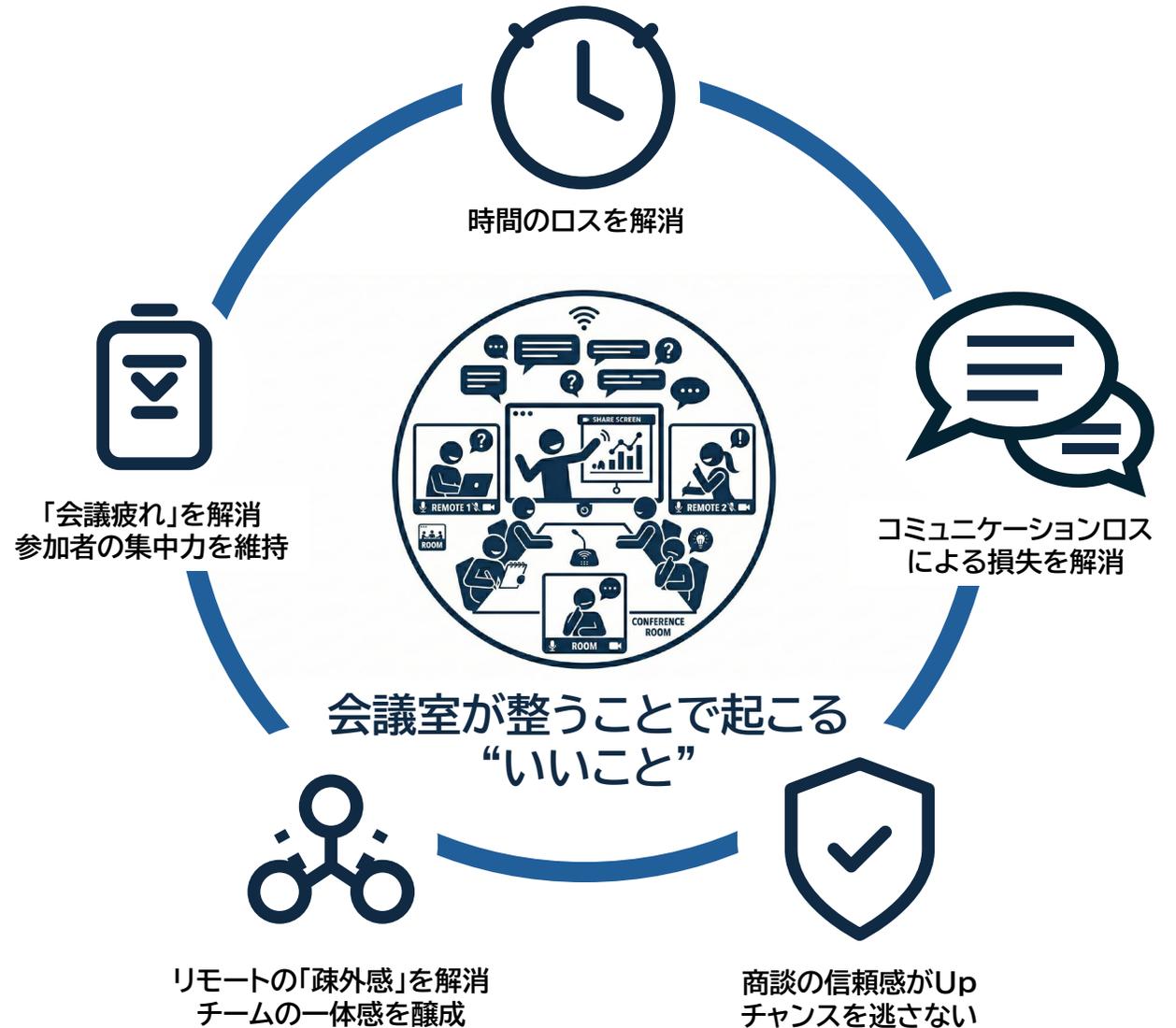
オンライン会議が日常化した今、会議室の設備は単なる備品からビジネスインフラへと進化しました。

「声が聞こえにくい」、「接続に時間がかかる」

そんな些細なストレスが、実は会議の質を下げ、意思決定の遅れやアイデアの損失を招いています。

快適な会議室環境を整えることは、社員のストレスを軽減するだけでなく、取引先への印象アップ、ひいては企業の利益向上へとつながる重要な投資です。

本マニュアルでは、よくある課題とその解決策を通じて、理想の会議室構築のヒントをお届けします。



会議室のお悩み別構築例 Case Study

Case01

複数の会議室を用途に合わせて単独・合同を選んで利用したい

お悩み

パーティションで仕切られた2つの会議室を、用途に応じて2部屋合同で利用したり、単独で1部屋を利用していますが、利用パターンによってマイクの集音範囲をPCを使って変更が必要など、会議準備に手間と時間がかかるため、不満が出ています。レイアウトに合わせて、もっと簡単に会議室の音響設備を切り替えられるアイデアはないですか？



ご提案

レイアウトごとに集音範囲や利用するマイクを設定し、ボタン一つで誰でも簡単に切り替えるスイッチ型卓上デバイスを中心とした構成はいかがでしょうか。



VTV Smart Switch (VSS) スイッチ型卓上デバイス

タッチパネルシステムを構築することなく、ボタンをタップするだけで接続された機器の設定を変更できるスイッチ型卓上デバイス
<https://www.vtv.co.jp/product/development/vss.html>



Shure MXA920 + P300 シーリングマイク、DSP

高性能シーリングマイクとDSPのセット
天井から室内の音声を集音。レイアウトに合わせて集音範囲を登録して呼び出すことで、参加者の着座位置にフォーカスすることが可能
<https://www.vtv.co.jp/product/shure/mxa920.html>
<https://www.vtv.co.jp/product/shure/intellimix-p300.html>



Shure Microflex Wireless neXt 4 ワイヤレスマイク

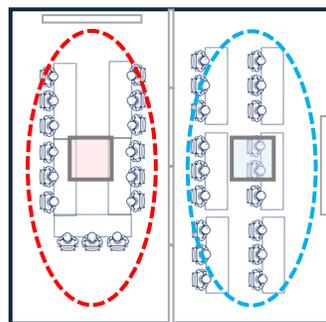
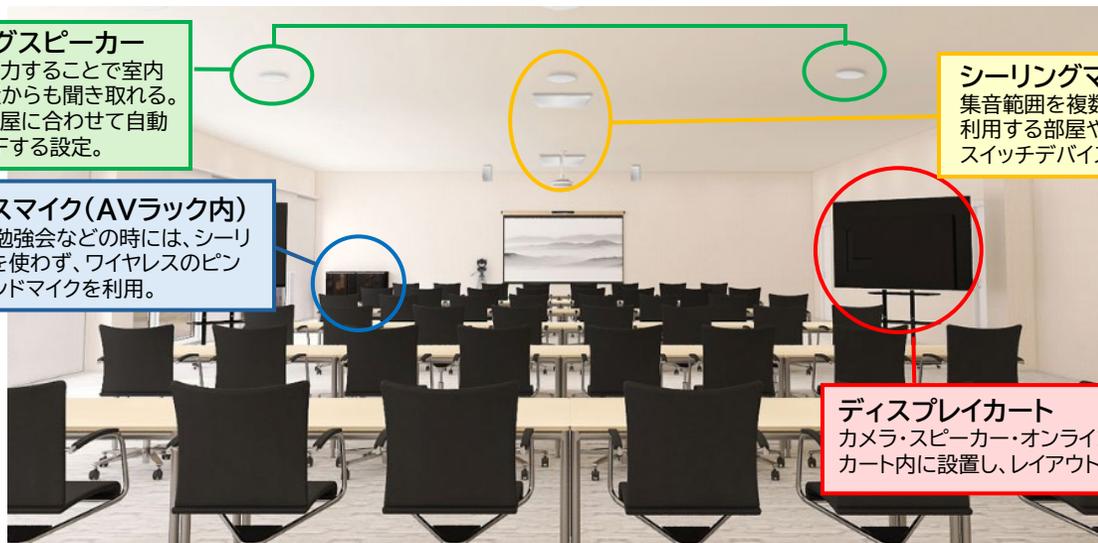
セミナー、勉強会向けのワイヤレスマイクセット。
ハンドマイクとピンマイクなどの組み合わせが可。
ワイヤレスマイクの単独利用やシーリングマイクとの併用をVSSで切替可
<https://www.vtv.co.jp/product/shure/mxw-next4-8.html>

シーリングスピーカー
天井から出力することで室内のどの位置からも聞き取れる。利用する部屋に合わせて自動でON/OFFする設定。

ワイヤレスマイク (AVラック内)
セミナーや勉強会などの時には、シーリングマイクを使わず、ワイヤレスのピンマイクやハンドマイクを利用。

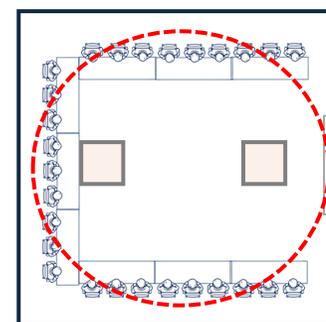
シーリングマイク
集音範囲を複数設定が可能。利用する部屋やレイアウトに合わせてスイッチデバイスから切替。

ディスプレイカート
カメラ・スピーカー・オンライン会議専用機もカート内に設置し、レイアウトに合わせて移動。



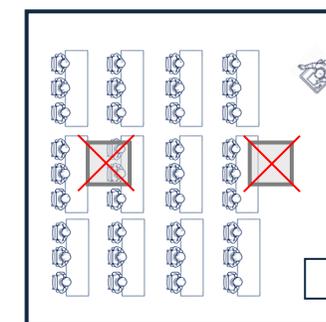
単独 単独利用

部屋毎にシーリングマイクとスピーカーの利用を選択できます。集音範囲はそれぞれの会議室内のみにセットされます。



合同 2部屋合同利用①

全てのマイクとスピーカーをオンにして2部屋を1つの会議室として利用できる設定を呼び出します。



合同 2部屋合同利用例②
ワイヤレスマイク利用

シーリングマイクをオフし、ワイヤレスマイクの音声をスピーカーから出力します。

Case02

会議室で音が反響する問題を解決したい ①ガラス張りの会議室

お悩み

会議室がガラス張りで音が反響するせいか、オンライン会議時に接続先から「発言が聞こえづらい」、「声が途切れて内容がわかりづらい」など不評です。反響音による音の悪さを改善することはできますか？



ご提案

DSP(Digital Signal Processor)対応の高性能マイクなら、ノイズやハウリングをカットして、会議の音質を飛躍的に改善することができます。ソフトウェア型ならコストを抑えることが可能です。



Shure MXA710 DSP対応バー型マイク

DSP対応の高性能会議用バー型マイク。ウォールマウント、テーブル埋め込み、デスクトップスタンド、モニターへの取り付けなど、多彩な取り付けパターンに対応し、広範囲の集音能力を発揮。

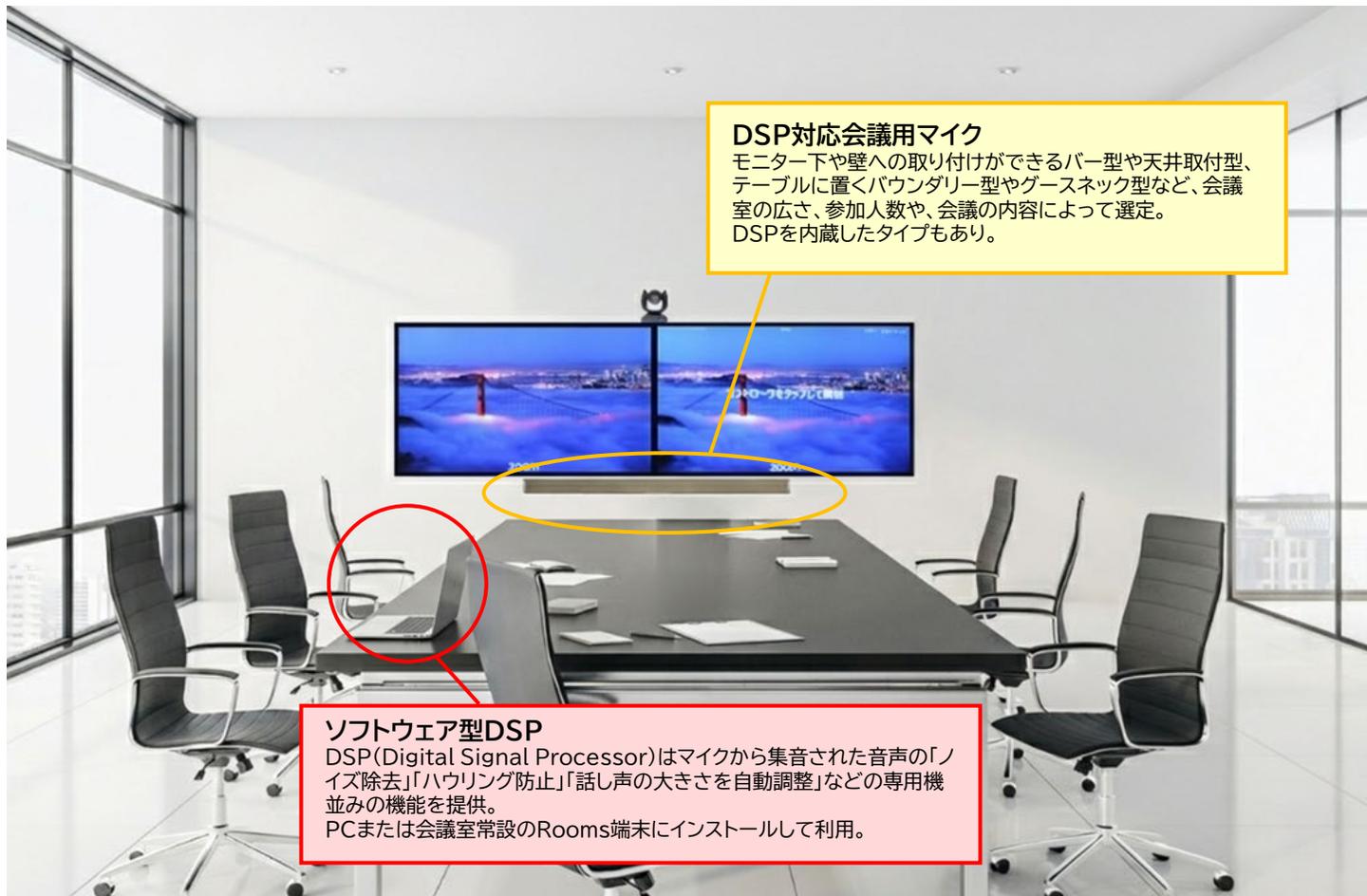
<https://www.vtv.co.jp/product/shure/mxa710.html>



Shure IntelliMix Room ソフトウェア型DSP

PCやRooms端末にインストールして利用できる、ソフトウェア型DSP。優れたノイズキャンセラー機能を搭載し、エコーやハウリングなどを解消して音声品質を向上。

<https://www.vtv.co.jp/product/shure/intellimix-room.html>



DSP対応会議用マイク

モニター下や壁への取り付けができるバー型や天井取付型、テーブルに置くパウンダリー型やグースネック型など、会議室の広さ、参加人数や、会議の内容によって選定。DSPを内蔵したタイプもあり。

ソフトウェア型DSP

DSP(Digital Signal Processor)はマイクから集音された音声の「ノイズ除去」「ハウリング防止」「話し声の大きさを自動調整」などの専用機能並みの機能を提供。

PCまたは会議室常設のRooms端末にインストールして利用。

Case03

会議室で音が反響する問題を解決したい ②設備を変えずに対策したい

お悩み

会議室で音が反響しているようで、オンライン会議時に接続先から音が悪いと言われます。改修直後なので、既存設備はそのままで改善したいのですが、方法があれば教えてください。



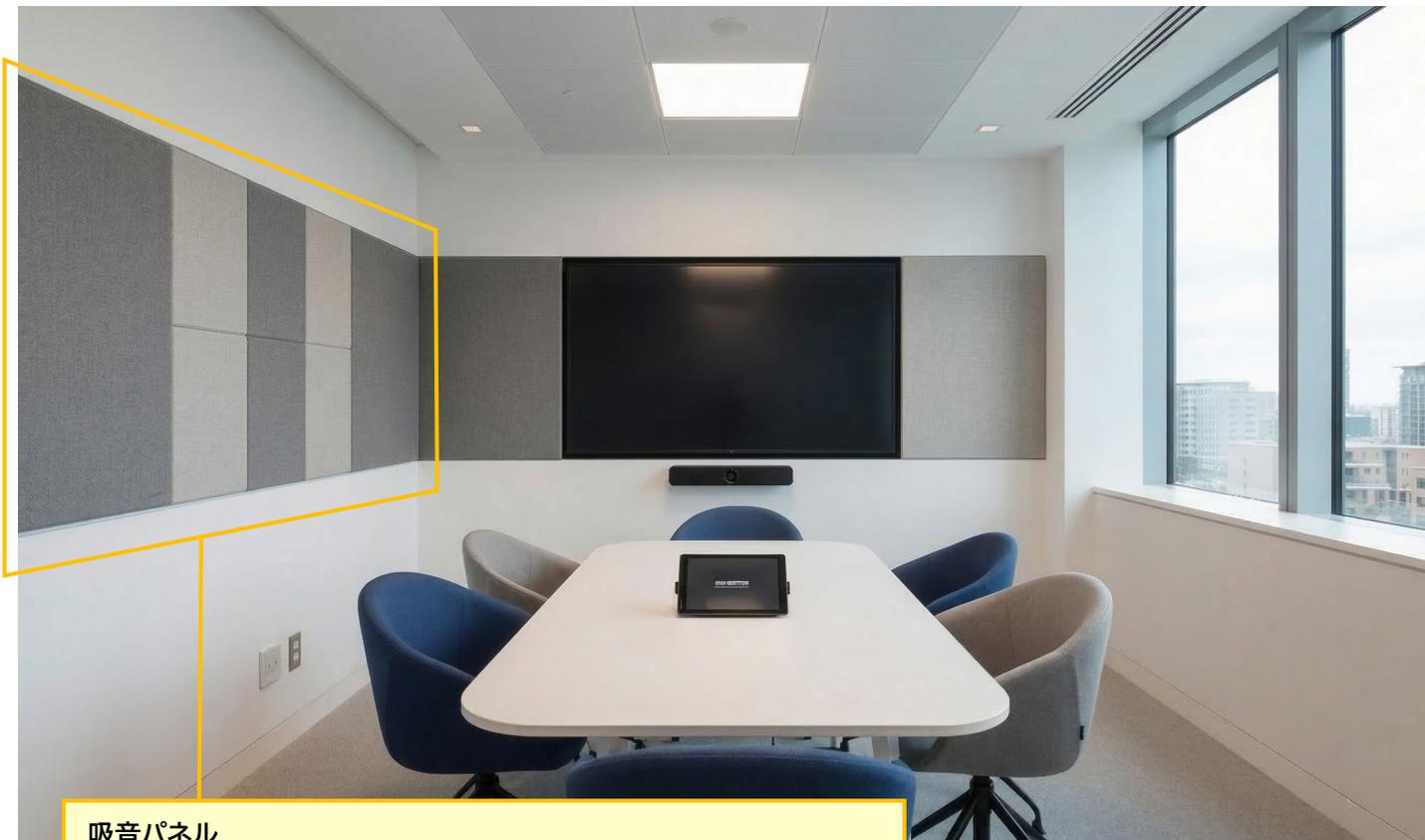
ご提案

既存設備の仕様などに問題がない場合は、吸音パネルをお試しいただくのはいかがでしょうか。マグネットがつく、または金具を付けることが可能な壁面があれば、工事なしでお手軽にお試しいただけます。さまざまな色や大きさのパネルがありますので、会議室の外観を崩すことなく対策できます。



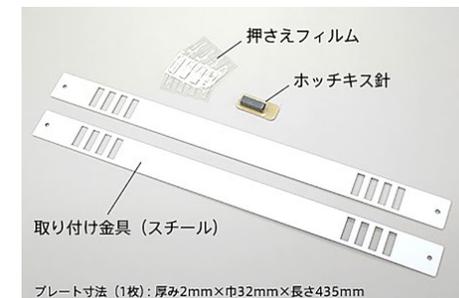
I.S.T イストフロンパネル 吸音パネル

反響音や残響音を吸音する性能を持つパネル。設置枚数や配置によって吸音量を調整でき、部屋の広さや用途に合わせて音響バランスを整えることができ、小会議室なら壁面に数枚設置するだけでしっかりと反響音を軽減。
<https://www.vtv.co.jp/product/ist/istflon-panel.html>



吸音パネル

会議室の反響音や残響音を調整。スチールパーテーションなどの壁面ならマグネット式で付け外しが簡単。石膏ボードに対応する取り付け金具もあり。豊富な色や大きさのバリエーションで壁面を自由にデザイン可能。



Case04

発言者の様子がはっきりと伝わるようにしたい

お悩み

会議室が広いので、会議室参加者からは「モニターが遠すぎて、接続先の発言者の様子がわからない」、接続先からは「カメラから遠くの人の様子が見えない」、「声が聞き取りづらい」といった不満が役員から出ています。発言者の様子がしっかりと確認できるようにするには、どのような方法があるでしょうか。



ご提案

フロアモニターと話者追尾ソリューションの構成はいかがですか？着席位置の前にモニターを置くことで、相手側の映像がはっきり確認できます。

また、どこの席から発言してもシーリングマイクがしっかりと集音するとともに、声の位置データを基にカメラが自動で話者を映し出すため、広い会議室からでも発言内容や発言者の様子を接続先にはっきりと伝えます。



Shure & AVer 話者追尾ソリューション

シーリングマイクが話者の位置を特定し、その情報をDSP経由でカメラボックスに渡すことで、あらかじめ登録された話者のカメラ位置を呼び出し、自然な話者追尾を実行。

<https://www.vtv.co.jp/product/shure/mxa920.html>

<https://www.vtv.co.jp/product/aver/ptc310uv2.html>



PTZカメラ
AVer PTC310UV2



カメラ制御ボックス
AVer MT300



DSP
Shure P300



シーリングマイク
Shure MXA920



シーリングマイク

天井から室内の参加者の音声を的確に集音するほか、カメラに話者の位置情報を提供。

PTZカメラ

シーリングマイクからの情報を元に、話者の位置に登録されたカメラ位置を呼び出し、話者をとらえる。

フロアモニター

着座位置のすぐ近くにモニターを配置
話者の映像をダイナミックに伝える

フロアモニタースタンド

着座した状態で見やすい位置・角度でモニターを配置するスタンドを特注。全ての席から見やすいと好評。



お悩み

お客様をお迎えする応接室としても利用するため、会議室の見栄えをよくしたいのですが、オンライン会議設備のケーブルや機器が多く、雑然とした印象になっています。工事は行わずに、ケーブルや機材をできるだけ見せないような改定案はありますか？



ご提案

小・中規模の会議室なら、カメラ・マイク・スピーカーが一体となったバー型モデルはいかがでしょう。モニターの上、または下に配置することで、配線も目立たずすっきりと設置できます。集音が弱い場合は拡張マイク(ワイヤレス)を追加できる製品もあります。専用機、BYODご希望の運用方法で構成します。



Yealink MeetingBar A40

バー型Microsoft Teams/ZoomRoomsデバイス

カメラ・マイク・スピーカー一体型のTeams・Zoomの会議へ参加できる専用機。操作コントローラーのみをテーブル上に置くだけで、すっきりとしたオンライン会議室を構築。オプションのワイヤレスマイクを追加することで、中～大規模会議室もカバー。

<https://www.vtv.co.jp/product/yealink/a40.html>



Yealink SmartVision40 オールインワンビデオバー

BYOD利用向けのカメラ・マイク・スピーカー一体型のビデオバー。最先端のAI機能によるカメラコントロールをサポートし、会議中に操作の必要なし。A40同様にワイヤレスマイクを2個まで追加が可能。

<https://www.vtv.co.jp/product/yealink/smartvision40.html>



Yealink VCM36-W ワイヤレスマイク ※拡張用

A40およびSmartVision40にはマイク内蔵だが、部屋の大きさや形状などで集音力が足りない場合は、オプションのワイヤレスマイクを2つまで追加できる。充電器はクレイドル型で置くだけで充電が可能。

<https://www.vtv.co.jp/vtvonline/product/yealink-a50.html#toc5>



バー型Teams Rooms/Zoom Rooms

カメラ・マイク・スピーカーが一体型のタイプ。モニター接続用、LAN回線、電源、タッチパネルのケーブルは、全てモニター裏に隠して配置することで、すっきりとした会議室が構築可能。

拡張マイク

ワイヤレス対応の拡張マイクをオプションに持つ製品もあり。内蔵マイクだけで集音できない広さにも対応。

Case06

声が小さい人の問題を解決し、議事録作成の手間を軽減したい

お悩み

声の小さい参加者がいて同じ室内でも席が遠いと聞き取れないこともしばしば。また、議事録作成用に会議の音声を録音していますが、声が小さいため内容が聞き取りづらく、議事録作成に時間がかかっています。



ご提案

内蔵スピーカー付きグースネックマイクとシーリングスピーカーの構成と、議事録作成ツールの併用をおすすめします。接続先の音声をシーリングスピーカーから、会議室内の参加者の声をマイク内蔵スピーカーから拡声します。グースネックマイクは声の小さい方も含め参加者全員の声がしっかりと集音できるので、議事録作成ソリューションの効果を最大限に活かします。



TAIDEN デジタル赤外線ワイヤレス会議システム

デジタル技術、ワイヤレスの利便性、赤外線伝送の特長を生かした会議室向けユニット。DANTE対応でケーブルを排したスマートな会議室構築が可能。同時話者数の設定や議長コントロールといったファシリテーション機能も充実。
<https://mtc-japan.com/products/taiden/hcs5300/hcs5300ma/>



メインユニット
HCS-5300M/80A



ワイヤレスマイクユニット
HCS-5390/5391

Scribe Assist 議事録作成支援アプリケーション

AIによる議事録作成支援アプリケーション。リアルタイムで会議音声の文字起こしを実施し、生成AIとの連携で自動要約を行い、議事録作成の手間を大幅に削減。



シーリングスピーカー
会議室の天井の四隅にスピーカーを設置して、接続先からの発言を拡声。

グースネックマイク
参加者の口元の音声を拾う超指向性マイク。声の小さい方の発言も逃さない。台座にスピーカーを内蔵し、室内の発言を自己拡声。

両脇にスピーカーを内蔵

Scribe Assist(ソフトウェア)

会議参加用PCに議事録作成ソフトウェアをインストール
グースネックマイクから明瞭な声が拾えることで、スムーズな文字起こし、議事録作成が可能。

Case07

複数のオンライン会議ツールが利用できる会議室を構築したい

お悩み

長年利用してきたテレビ会議システムのサポートが終了するため、リプレースを検討しています。社内のメインツールはTeamsなのですが、取引先はZoomを利用して、双方に参加できるようにしたいです。役員は以前と同じように利用できる専用機の導入を希望しています。どのような方法がとれるでしょうか？



ご提案

テレビ会議システムから違和感なくリプレースできるように、メインツールのTeams用の専用機を導入し、他の会議ツールには持ち込みPCから参加できるような構成はいかがでしょうか。会議室常設のカメラやマイクを専用機とPCどちらからも利用できるようにすることで、持ち込みPCからの参加もストレスなく利用できます。



Lenovo ThinkSmart Core Gen2 Microsoft Teams Rooms デバイス

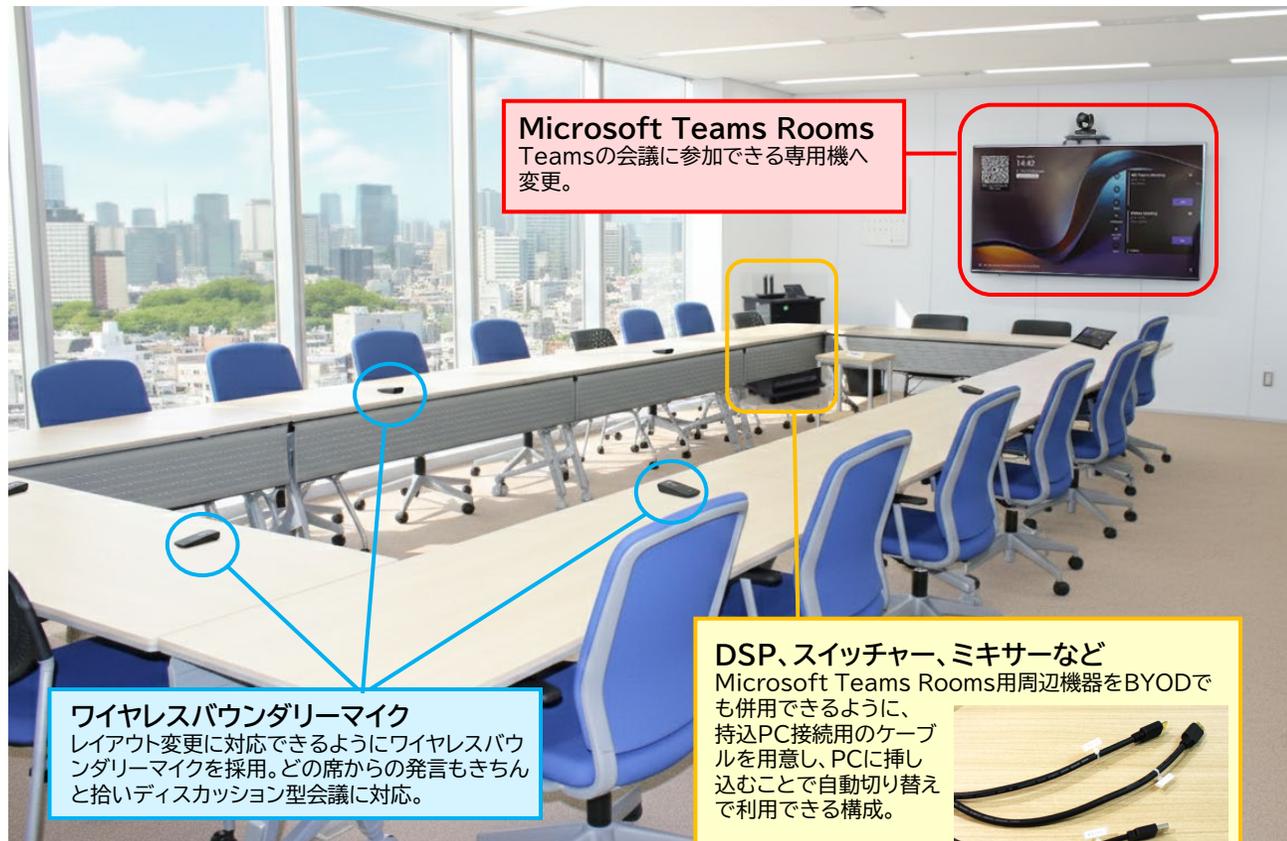


Teamsの会議に参加できる専用機。コントローラーから簡単に操作可能。H.323システムでおなじみのPTZカメラなど、サードパーティ製の周辺機器が選べるインテグレーションモデル。BYODとの併用構成が容易。
<https://www.vtv.co.jp/product/lenovo/thinksmart-core-gen2.html>

Lightware TAURUS UCXシリーズ マトリックススイッチャー



会議室内のモニターおよびカメラ、マイク、スピーカーなどのUSB周辺機器をまとめて活用できるUSBハブを内蔵、PC、専用機間で簡単に切り替えることが可能。
<https://mtc-japan.com/products/lightware/ucx/>



Microsoft Teams Rooms
Teamsの会議に参加できる専用機へ変更。

DSP、スイッチャー、ミキサーなど
Microsoft Teams Rooms用周辺機器をBYODでも併用できるように、持込PC接続用のケーブルを用意し、PCに挿し込むことで自動切り替えで利用できる構成。

ワイヤレスバウンダリーマイク
レイアウト変更に対応できるようにワイヤレスバウンダリーマイクを採用。どの席からの発言もきちんと拾いディスカッション型会議に対応。



改修前



会議室構築時に気をつけたい点
Key Points

会議室構築時のポイント

—スムーズな導入のために必要だけど見落としがちな点—

スムーズなオンライン会議室のリプレイスに成功されたお客様が、実際に実施されていたことをご紹介します。



導入スケジュールに余裕を持つ



機器選定・社内稟議・機器納期・設置作業など、導入までには想定以上に時間がかかることがあります。

余裕をもったスケジュールで計画を立てることが重要です。

⇒p.14を参照ください



専門会社に相談する



会議室の広さや人数、利用ツールに合わせて最適な機器構成を設計するには専門知識が必要です。特に音声の問題が起こりがちです。

オンライン会議に精通した専門会社に相談することで、失敗のない構築が可能になります。



「実機体験」を行う



カタログだけでは、音声や映像の品質、操作性は判断しにくいものです。

デモや体験を通じて決裁者にも実際の使い勝手を確認してもらうことで、スムーズに導入を進められます。



導入前に運用方法を決める



導入後に「使いにくい」「活用されない」とならないよう、会議室の使い方や利用ルールを事前に整理しておくことが大切です。

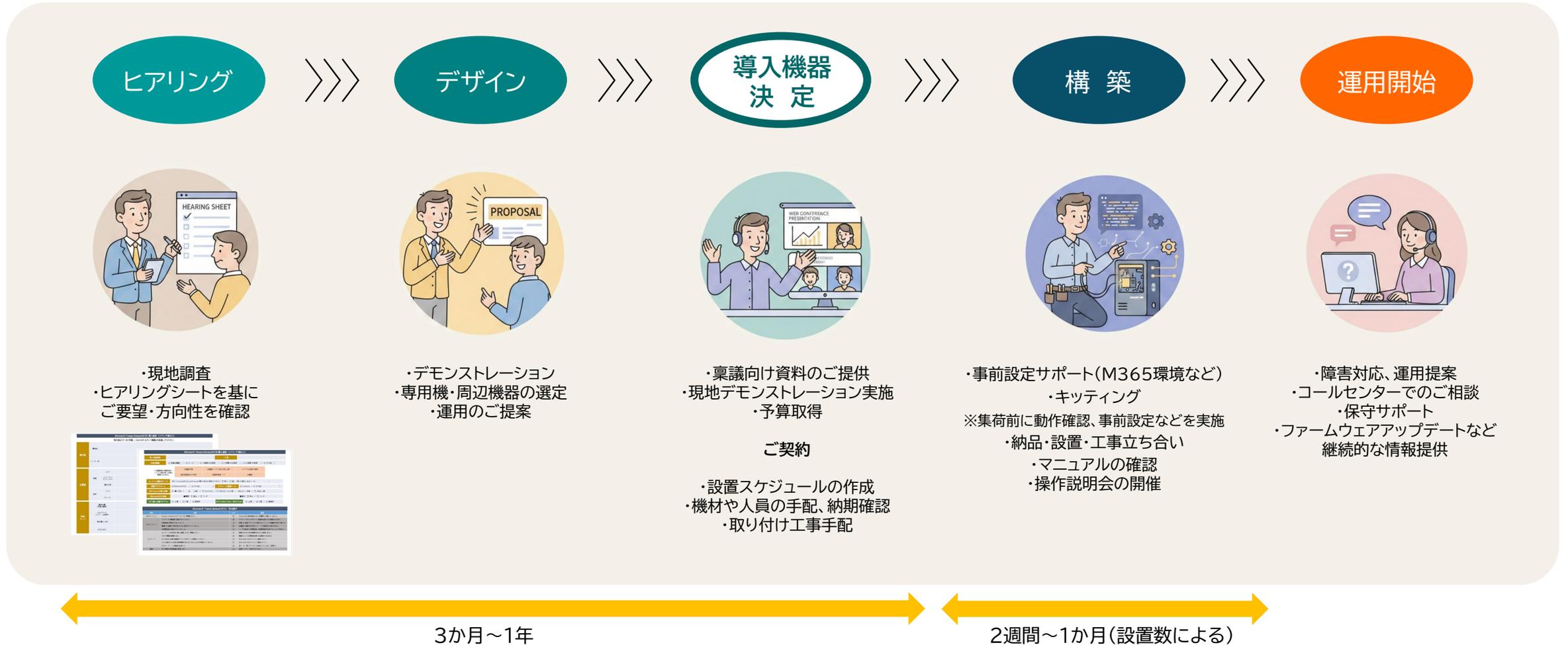
また、トラブルや故障時には誰がどのように対応して復旧するかなども検討しておく必要があります。

⇒p.15を参照ください

導入・運用開始までのスケジュール

—ご依頼後から導入までの流れ—

VTVジャパンではご依頼をいただいてから以下の流れで、お客様と一緒に進めさせていただきます。
取り付け工事が必要な機器については事前調査や施工調整が必要となるため、予算確保から導入までの期間を含め、余裕を持ったスケジュールを立てることをおすすめします。



保守サポートの検討

－会議室の環境を保ち、更新していくために－

VTVジャパンではオンライン会議用会議設備の運用を総合的に支援する保守サービス「Conference Care」を提供しています。運用開始後も常に「安全・安心・安定」した状態で会議室を利用できる環境を維持し、万が一トラブルが発生した時には迅速に解決して再発を防止、必要があれば機器の追加やリプレイスを提案いたします。ぜひ、会議室構築予算に含めてご検討ください。



サービス内容の詳細はホームページを参照ください。 <https://www.vtv.co.jp/support/vtvaftercare/>

| プラン | Standard | Extra |
|--------------|---|--|
| こんな方におすすめ | 「導入完了後も会議設備を効果的に運用できる支援体制を整えておきたい」 | 「有事の際の機会損失を最小限に抑え、不安なく会議設備を使える状態にしておきたい」 |
| | <ul style="list-style-type: none"> システム利用・運用についての相談先が欲しい トラブル発生時に迅速に対応してほしい 安定したシステムを運用したい 利用者からの問い合わせを減らしたい システムの管理・維持を任せたい 定期的な再調整や1年点検(Extraサービス)によりトラブルの発生を最小限に抑えたい | |
| コールサポート | ○ | ○ |
| オンサイトサポート | ○ | ○ |
| 運用マニュアル管理 | ○ | ○ |
| システム再調整 | ○ | ○ |
| 代替え製品のお貸出し | ○ | ○ |
| システム点検 | ○ | ○ |
| 重要会議アシストサービス | | オプション |
| オンサイト訪問サービス | | オプション |

カスタマイズ保守のご案内

—リプレイスの検討期間を延長できた事例—

オンライン会議室の保守サービス「Conference Care」の他にもお客様の状況に合わせたカスタマイズ保守のご提案も可能です。

リプレイスまでの猶予期間が短い、または確保できない場合の代替保守としてもご活用できます。

お悩み

テレビ会議システムのメーカー保守サポートが終了するので、いよいよリプレイスが必要になりました。しかし、一度に全社のシステムを入れ替える予算はなく、また、複数のオンライン会議ツールを併用する運用が定着していて、次のオンライン会議をどのツールをメインとするかを判断できない状況です。どのようにリプレイスを進めたらいいでしょうか。



ご提案

まず、保守サポート期間が切れてしまう製品については、弊社のサポートチームで代替機とコールサポートを用意して対応できるよう、お客様独自のカスタマイズ保守を作成して提供を開始しました。安心して継続利用ができる環境を作った上で、お客様と次期オンライン会議の運用方法の検討を開始、考えられる運用方法の比較表を作成するなどして打ち合わせを重ねて、複数の会議ツールを同じ手順で操作できる常設PCによるBYOD案が採択され、リプレイスを開始しました。



VTV Care オンライン会議保守・運用サービス

オンライン会議に関する保守・運用を包括サポート。コールサポートからカスタマイズ保守まで、ニーズに合わせたメニューをご用意しています。
<https://www.vtv.co.jp/support/>



カスタマイズ保守を含め、さまざまな保守をご用意しています。お気軽にご相談ください。

よくある質問

Q. 既存設備を流用できますか？

A. 機材の状態や新しく入れる機材との仕様上の問題などがなければ、継続して利用可能です。
モニターやプロジェクター、スピーカーなどを継続して利用されるお客様は多いです。

Q. シーリングマイクやスピーカーの導入にはどのくらいの予算や工期が必要ですか？

A. 天井取付型のシーリングマイクやスピーカーは製品自体が高性能でDSPなどの機器も同時購入が必須であること、業者による取り付け工事が必要なことなどからどうしても高額になり、スケジュール調整に時間がかかることが多いです。
※製品にもよりますが、シーリングマイク1台で工事を含め100万円を超えるケースが多くみられます。

Q. ランニングコストには何が含まれますか？

A. 主にライセンス費用と保守サポート費用が含まれます。Teams RoomsやZoom Roomsなどの専用機を利用する場合、Rooms専用のライセンスが1台毎に必要です。また、保守サポートをご契約いただく場合は、その費用も含めてご検討ください。

Q. Microsoft Teams、Zoom、Google Meetの3つとも利用できるように対応できますか？

A. 運用イメージに合わせた構成が可能です。利用頻度がもっとも高いWeb会議の専用機を導入し、ほかのWeb会議には持ち込みPCから接続できる構成や、専用機のゲスト参加機能を活用した運用方法など、ご要望を基にご提案いたします。

デモンストレーションのご案内

—まずは体感してみませんか？—

会議室は企業の顔であり、生産性の要です。VTVジャパンは、マルチベンダーとして貴社に最適な環境をオーダーメイドで構築します。

まずは気になるオンライン会議室の機器を体験してみませんか？

東京(九段下)と大阪(本町)にオンライン会議室を構築したデモルームがございます。



東京デモルーム（東京オフィス）

東京都千代田区九段北1-11-11 第2フナトビル6階

地下鉄半蔵門線・東西線・都営新宿線

九段下駅 5番出口より徒歩3分

7番出口より徒歩2分



大阪デモルーム（大阪オフィス）

大阪市中央区瓦町4-5-9 井門瓦町ビル5階

地下鉄御堂筋線 本町駅 2番出口より徒歩4分

地下鉄四ツ橋線 本町駅 25番出口より徒歩4分



VTVジャパン株式会社

お問い合わせ

03-5210-5021

[https://www.vtv.co.jp/contact us/](https://www.vtv.co.jp/contact-us/)